



NPO 法人 土佐の森・救援隊事務局長  
小規模林業&木質バイオマスアドバイザー

なかじま けんぞう  
**中嶋 健造**

高知県生まれ

平成15年 NPO法人 土佐の森・救援隊の立ち上げに参加  
平成18年 第4回オーライ!ニッポン大賞ライフスタイル賞受賞  
平成21年 鳥取大学地域学部非常勤講師  
平成21年 中国四国バイオマス発見活用協議会委員  
平成23年 中国四国地方における地域循環圏構築に向けた検討委員会

## 小規模な自伐林業で被災地支援を!

私が事務局長を務めるNPO法人土佐の森・救援隊は、高知県を中心に、自伐林業方式という高性能・高額機械に頼らず、自分の山を自分で伐るシンプルな小規模林業と、木質バイオマスや地域通貨などを利用した地域振興の普及といった活動をしています。

今回の震災では、岩手県大槌町吉里吉里地区の避難所において薪ボイラーによる支援に協力し、薪風呂の設置などを行ってきました。これは、3月12日に土佐で講演予定だった岩手県林務課の深澤光さんが避難生活の中で得た「災害救援薪」というアイデアがはじまりです。その深澤さんが被災地支援として配属されたのが吉里吉里地区だったため、わたしたちもその活動に協力することにになりました。

その活動を通じて、私たちのノウハウが被災地支援にそのまま応用できるのではと思

い、支援に乗り出しました。

6月には吉里吉里地区の被災者の有志とともに、自伐林業で経済的自立を目指すための「NPO吉里吉里国」を立ち上げ、「吉里吉里国林業大学校」(自伐林家養成塾)を開講し、土佐の森・救援隊が講師として、チェーンソーの使い方から伐倒・搬出の仕方、作業道の作り方などの研修を行っています。

自伐林業方式を支援として応用するメリットは、ひとつには誰にでもできるということ、また、被災地には山がたぐさんあるということ、そして初期費用を少なく抑えられる(チェーンソーと林内作業車+軽架線で約200万円位、小型バックホー中古で200万円位、全部で400万円位)ということ。森は海の恋人です。いい山を造ればいい森ができ、いい森ができれば漁業の生産性もあがるので、海が近い被災地の支援に最適だと言えるでしょう。

今回のプロジェクトに参加されている方たちは、漁師や

サラリーマンなど、震災で仕事がなくなた方たちで、林業を専業でやろうと思ってる方が3人ほど、副業でやろうと思ってる方が14人くらいです。参加者は、これが仕事になるならとやる気満々です。私たちが徹底的に本気で支援していくつもりです。

100haの山があれば、3人の専業雇用が可能で、副業なら、十数人の雇用が見込めます。現在、吉里吉里地区で確保できているのは、約50ha位ですが、将来的に数百haまで広げることが可能です。

林業の大規模化も重要ですが、雇用力が大きく、自分の山に責任を持ち、永続的管理につながる小規模な自伐林業ももっとサポートされ、元気になれば、日本の森づくりも進み、復興支援にもつながると考えています。

今後は、「吉里吉里国林業大学校」にて林産物の生産や木材加工の仕方なども研修に盛り込み、参加者の経済的自立を目指すとともに、他の被災地でもこの活動を広げていく予定です。